

PROLOGUE

木二中 学校だより No.42 令和7年3月17日
令和6年度最終号！ 校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233

E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



令和6年度修了

令和7年3月24日(月)に行われる修了式をもって令和6年度が修了(終了)となります。1・2年生はそれぞれ4月には新2年生、新3年生として令和7年度を迎えます。新入生は今のところ173名を予定しているので、新2年生180名、新3年生180名、合計533名で新年度をスタートすることになります。

週に1度、発行してきた学校だより「PROLOGUE」も本日発行の第42号が最終号、1年間にわたりご覧いただき、本当にありがとうございました。いわゆるよくある「学校だより」の内容とは異なり、校長の思いの丈を綴った、やや異質なおたよりですが、各方面、数多くの方々に読んでいただいているようで、たいへん嬉しく思います。

先日、私の教え子(40代女性)から連絡があり、「先生のおたより、いつも読ませていただいています。中学生だけでなくもう中年の今の私にも響いているおたより…、ありがとうございます。最新版、なかなか厳しいお話に、『え？見られてる？』『お、まさしく私だな…』と考えさせられます。」(原文まま)とのこと。その他にも教育現場の第一線で活躍している多くの教え子たちも読んでいることから、パスをかけずにアップしています。新年度も木更津第二中学校に在籍することができれば、引き続き学校だよりを発行させていただきたいと考えています。

2・6・2の法則、あなたはどこに属する？

出会いと別れの春、学校だけじゃなく企業や官公庁、その他様々な組織で新年度がスタートするこの時期、組織における2・6・2の法則って聞いたことありますか？

2・6・2の法則を検索してみると、I N上のあらゆるサイトに次のように記されています。

一般的に組織は、意欲的に働く上位20%、普通に働く中位60%、怠け者の20%に分かれる傾向が高い、というのが「2:6:2の法則」です。この法則はよく「働きアリの集団」でも見られるとされており、有名な事例です。

しかも不思議なことに、モチベーションの高い20%の意欲的に働く人たちだけで構成された組織であつてもこの2・6・2の法則が当てはまるのだそう。学校、学年、学級という組織の中で、もちろん生徒に限らず先生だってこの割合のどこに自身が属するのかって何だかドキドキと気になりますね。きっと誰もが意欲的に働く20%でいたいと思うけど…、っていう感じではないでしょうか？

学校は、営利を追求する組織ではないので、私はこの法則については行事や時期などによって変化があつていいと考えます。いついかなる時でも怠け者では困りますが、人間誰しも得手不得手があるもの、ある時には上位20%だけど、当然そうでない時があつて不思議ではない。誰だって上位の時もあれば、中位、下位の時だっていくらでもあるということ。ある意味ではそうやってバランスがとられているのが組織というものではないかとも思います、特に学校という組織については。

間違えてはいけないのが、上位・中位・下位のどこに属していようが、それぞれの人たちが攻撃の対象になってしまうということ。上位・中位の人に対する妬みやつかみ、下位の人に対する中傷。これがあつたら組織はいとも簡単に崩壊するでしょう。もう1度言います。誰だって取り組む内容や、時期によって上位にも中位にも下位にもなり得るわけだから、属性そのものが他者を攻撃する理由にはなりませんよ、ということです。

卒業式後の学校生活を振り返ってほしい

3年生たちが立派に卒業した翌週からの木二中を振り返ってみてください。校長先生のところにあがってくる報告事案が、生徒指導上の問題が多いように感じます。物がなくなる、持ち物にいたずらされる、ふざけ合いから争いごとに発展する、等々。考え方や価値観が異なる人たちとどのように接していけば組織がうまく機能するのか？と考えられるのが人間です。考え方や価値観が異なる人たちは決して敵対する相手ではないし、攻撃対象なんかではない。

令和7年度、誰もが気持ちよくスタートできるようにするにはどうしたらよいか、一人一人が自覚することが大事なんだと思います。令和6年度、木二中学生の皆さん、お疲れ様でした。